



令和5年3月24日  
 発行：鳥取県教育委員会事務局  
 社会教育課  
 社会教育・地域学校協働推進担当  
 TEL/0857-26-7521  
 FAX/0857-26-8175



<https://www.pref.tottori.lg.jp/kateikyoku/>

鳥取県では、すべての保護者が安心して子育ておよび教育を行うための支援(家庭教育支援)を行うことにより、家庭における教育力の向上を促進しています。

家庭はすべての教育の出発点と言われます。「ねっこりん」は鳥取県家庭教育応援キャラクターです。皆さんとともに応援し続けます。

Withコロナ、3年目。感染症対策を十分したうえで、マスクの着脱について個人の判断に委ねられるようになりました。オンライン・オンデマンド形式の研修会にも慣れましたが、一方で「対面すること」のよさにも改めて気づく場面もありました。この3年間、保護者の集まりが制限されることが多く、保護者の学び・気づき、仲間づくりの機会が十分に作り出せませんでした。ようやく、対面での活動も増えていくのではないかと期待します。感染症対策は続きますが、子どもたちの居場所である家庭、園・学校、地域等で様々な工夫をしながら、子ども達の育ちを支えていく環境づくりと保護者への伴走支援も求められていますので、益々、子育て・家庭教育支援の関係者の皆様と連携・協働していきたいと思えます。

さて、本年度も「切れ目ない、きめ細やかな子育て・家庭教育支援」を合言葉に子育て・家庭教育支援を推進してきました。本年度の子育て・家庭教育支援についてまとめてみましたので、今後の活動に生かしてください。

## 研修等のまとめ

### 鳥取県子育て・家庭教育支援員等フォローアップ研修会

市町村における家庭教育支援チームの形成や既存のチームの交流を促進し、家庭教育支援チームの取組の充実を図るとともに、届ける家庭教育支援体制の構築を推進する。

- ＜第1回＞市町村の家庭教育支援充実に向けて 7月7日(木)

  - 行政説明
  - 事例発表：南部町の子育て・家庭教育支援～教育と福祉の連携について～
  - 講演：「教育と福祉が連携し地域で取り組む家庭教育支援」
- ＜第2回＞チーム員・支援者としてのスキルアップ 7月26日(火)(延期)⇒10月3日(月)

  - 講演：「保護者とともに子どもの育ちをそだてるために」～子どもの発達に寄り添って～
  - 演習：「カウンセリングマインドを活かした聴くこと・つながること」
- ＜第3回＞支援方法の立て方・ケース会議の手法 9月22日(木)

  - 講演：「子どもをチームで支援するための方策について」
  - 講演：教育支援センターハートフルスペースの取組について」
- ＜第4回＞子育て・家庭教育支援の充実に向けて～多様な子育て・家庭教育支援の在り方～ 11月24日(木)

  - 県内実践発表：「公民館を核とした家庭教育支援」
  - 講演：「地域の実情に応じた家庭教育支援の推進」(岡山市)
  - 講演：「勝央町家庭教育支援チームの取組 ～学校と家庭のパイプ役～」(勝央町)
  - 情報交換

NEW

### 鳥取県家庭教育支援チーム情報交換会・研修会

市町村における家庭教育支援チームが交流し、情報交換の機会を持つことにより取組の充実、支援者としてのスキルアップ及び地域の実情に応じた子育て・家庭教育支援の組織づくりを支援する。

- ＜第1回＞10月3日(月)

  - 行政説明「家庭教育支援チームについて」
  - 情報交換「各地域での家庭教育支援チームの取組」
- ＜第2回＞12月23日(金)

  - 家庭教育支援チーム員研修会として、ファシリテータフォローアップ研修会と兼ねて開催。
- 「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータフォローアップ研修会 12月23日(金)

「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータ(進行役)として、地域における家庭教育支援の中核となる人材の資質向上をする

  - 行政説明「鳥取県の家庭教育支援について」
  - 講義：「ウィズ・コロナ時代の家庭教育支援」～ワークショップに光をあてて～
  - 演習①：「今、本当に必要な支援を感じるワークショップ」～プログラムを使った体験的学び～
  - 演習②：「マンダラチャートで未来を描く」～私たちの方向性をみんなで作る4～

## 各市町村の子育て・家庭教育支援取組

### 子育て・家庭教育支援員等フォローアップ研修会

#### 《第1回》市町村の家庭教育支援充実に向けて<7月7日(木)>

○行政説明「県の子育て・家庭教育支援」子育て王国課・社会教育課

- ・家庭教育・家庭教育支援とは
- ・子育て王国ととりの建国宣言 ・鳥取県の家庭教育施策
- ・家庭教育支援チーム形成・活動に活用可能な子育て王国ととりの子育て支援
- ・県内の家庭教育支援施策の取組状況

○事例発表「南部町家庭教育支援の取組～教育と福祉の連携について～」

南部町教育委員会事務局 人権・社会教育課 家庭教育推進員 中谷 博視 氏

○講演「市町村の家庭教育支援の充実に向けて～教育と福祉が連携し地域で取り組む家庭教育支援～」  
大阪教育大学 教育学部 教育協働学科 教育心理学講座 発達人間福祉学  
教授 新崎 国広 氏

<参加者より>

【事例発表を聞いて】

- 各園に出向いてのセミナーや「家族へ贈る漢字」などユニークな事業はアイデアの1つとして取組のヒントとなった。
- さまざまな方を対象とした取組を具体的に広く学ぶ事ができた。連携先の専門性を活かす事で、支援の幅が広がるとわかった。

【講演を聞いて】

- 「家庭教育支援はナナメの関係づくり」という言葉には、今までの自分の見守り方で間違っていなかったし、その関わり方なら私も出来ると思え、勇気が出た。
- 地域で、子どもや大人が信頼できる関係となるきっかけづくりを展開していきたい。たくさんの方々を繋ぐ縁の下の存在になりたい。

学びの紹介

家庭教育支援に求められるスキル

「出会いと学びの演出家」となる！

- ①アセスメント力(状況把握力)
- ②カウンセリングマインド  
=話上手より聞き上手
- ③プレゼンテーション力  
=相手にわかる言葉で想いを語る力
- ④受援力・助けられ上手  
新崎先生の資料より抜粋

事例発表では、市町村で核となって家庭教育推進を進めておられる推進員さんの活動を聞きました。



## 《 第2回 》チーム員・支援員としてのスキルアップ<10月3日(月)>

○講演

「子どもの育ちを支える大人のつながり～子どもの発達に寄り添って～」

○演習

「カウンセリングマインドを活かした 聴くこと・つながること」

講師:臨床心理士 小林 幹子 氏

学びの紹介

すべての子どもの成長につながること  
安心・安全な場を作り、ゆっくりと人との関係を築き  
興味・関心にまなざしを向けて共有していくこと

子育て・支援の『さしすせそ』

さ…最悪を想定し(想像しないと見えないことも)

し…慎重に(落ち着いて必要なことを考える)

す…素早く(必要であればすぐに動く)

せ…誠意を持って(相手に寄り添い)

そ…組織で(チームで対応する)

※小林先生の資料より抜粋



<参加者より>

【講演を聞いて】

- 人間は乳幼児期に人とのつながり、“まなざしの共有、三項関係”で言葉を獲得して発達しているという基本的な事から、いかに人とのつながりが大切なのかを再確認できた。

【演習について】

- 例題を元に様々な立場の方との意見を聴くことができ、参考になりました。それぞれの立場から、いろいろな視点を持ちながら家庭をみていく大切さ。家庭と一緒に考え、話を聴いていくことで家庭とのつながりを作れるよう活動していきたい。



## 《 第3回 》チーム員・支援員としてのスキルアップ<オンライン開催：9月22日(木)>

○講演「子どもをチームで支援するための方策について」

鳥取県福祉相談センター 次長 坪倉 嘉隆 氏

○講演「教育支援センター ハートフルスペースの取組について」

鳥取県教育委員会事務局いじめ・不登校総合対策センター 指導主事 西村 学 氏

<参加者より>

- 社会情勢、特に経済状態、メディアの発達により、子育ての環境が大きく変わると改めて感じた。地域でできることは限られているかもしれないが情報を共有しながら進めることは必要。
- 身近な場所にハートフルスペースがあることを知った。自己肯定感・自己有用感など、心の根っこを育てる取り組み、保護者への関わりなどされて、広報もなされているのだから知名度が低いと感じた。生活体験を広げ、成功体験を重ねる活動を通して自分の好きなこと、得意なことを見つける機会を持てることはとても良いと思う。

学びの紹介

○同じ状況でも、理由によって支援の仕方が変わってくる。

⇒フォーマル、インフォーマル問わず、多機関の目が必要

○チームで支援するにあたってのポイント

- ・個人情報取り扱い
- ・得意な分野で積極的に支援
- ・当事者と一緒に考えていく(できている強みを見だし、強化)
- ・関係機関同士で責め合わない。できることを積極的に取り組む



《 第4回 》 子育て・家庭教育支援の充実に向けて<11月24日(木)>

- 県内実践発表：「公民館を核とした家庭教育支援」  
鳥取市立賀露地区公民館 主任 岸 多津 氏
- 講演：「地域の実情に応じた家庭教育支援の推進」  
岡山県教育庁 生涯学習課 社会教育主事(主幹) 西原由布子 氏
- 講演：「勝央町家庭教育支援チームの取組 ～学校と家庭のパイプ役～」  
岡山県勝央町教育振興部 社会教育主事(参事補) 三戸 祥恵 氏  
家庭教育支援チーム「あすなろ」 家庭教育専門員 田中 和子 氏
- 情報交換

学びの紹介

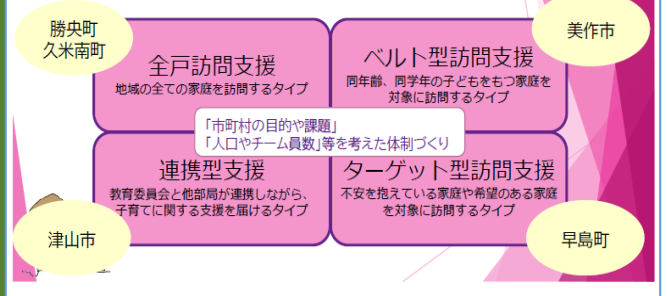
- 公民館で行っている事業を子育て・家庭教育支援の視点から整理し、発表。  
公民館は・・・地域をつなぎ まなび むすぶ存在であり、地域住民の自己有用感を高めるきっかけづくりを目指し、これからも日々寄りそい続ける家庭教育支援ができればいい。
- 岡山県の地域の実情に応じた家庭教育支援の推進についてを紹介していただいた。家庭教育支援チームの取組例については右の図を参考。  
「できる支援・続く支援」を目指して。
- 家庭教育支援チーム「あすなろ」の活動
  - ①子育て・家庭教育情報誌「あすなろ」を発行(3カ月毎)
  - ②個別家庭訪問で保護者と「顔の見える関係づくり」  
小中学生の家庭を訪問し、情報誌を手渡す。チーム員の役割は、困りごとを聞き出して答えるのではなく、『傾聴』することのみ。
  - ③チーム連絡会を開催(毎月)  
方針がぶれないように意識共有する目的で、毎月連絡会を開催。
  - ④冬休み宿題教室を開催  
子どものためにもなり、家庭も応援できる企画。

岡山県訪問型家庭教育支援(タイプ例)

2 チームの活動状況

(1)活動内容

ウ)訪問型家庭教育支援(タイプ例)



岡山県教育庁 生涯学習課 講演資料より抜粋



地域の実情に合わせた家庭教育支援に取り組んでいこう!

<参加者より>

- 保護者が安心感を持ち、ほっとできる場所づくり、仲間づくり、子育ての学びが提供できたらいい。この取組を目標に活動していきたい。
- 子どもの成長と共に活動を考えられていて素晴らしい。また、公民館活動も中学生になれば部活動等で参加が難しくなるが、それを高校生、青年と継ぐ努力もされていて、学ぶことが沢山あった。
- 各地域で特色ある活動、継続できる活動を紹介いただき、地域にあった取組でいいのだと再確認できた。
- 他県の取組や活動内容を知ることができて良かった。親プロの活用を多くの地域で取組まれていることを知り、私たちも鳥取のプログラムをもっと活用していきたい。
- 訪問型支援を行っていく上で、学校と家庭のパイプ役というスタンスは、訪問チームの皆が共有しておく大切なことだと理解した。
- 担当者が変わっても継続できる組織を私たちも目指そうと思う。さらに、支援する側として傾聴の基本に立ち返り、学び続けたい。

県内の家庭教育支援チームは何チームある?



地域の実情に合わせ「できることから」取り組まれています。

県内に、8 チーム(R5.3 現在)あります!

活動内容

- 訪問型(ベルト型)家庭教育支援
- 親子参加型イベントを中心に保護者の気づきや学びを推進
- 保護者の仲間づくり
- 子どもたちの居場所づくり
- 困り感のある保護者の支援や研修会実施
- 子育てサロンの開催
- 情報提供
- 子育ての悩み相談 等

NEW

鳥取県家庭教育支援チーム  
情報交換会・研修会

《情報交換会》 10月3日(月)>

<参加者より>

- 各市町村、それぞれの取り組みを聞くなかで、参考になる実践事例を知ることができました。今回、得た情報を持ち帰り家庭教育支援チームのメンバーと共有しながら、活動をしていければと思います。
  - その地域ならではの支援の方法や課題などを直に聞くことができ、参考になりました。
- 《研修会》12月23日
- 「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータフォローアップ研修と兼ねて実施。

ファシリテータフォローアップ研修会  
12月23日(月)

【午前】

- 行政説明「鳥取県の家庭教育支援について」
- 講演「ウィズ・コロナ時代の家庭教育支援」  
～ワークショップに光をあてて～

【午後】

- 演習「今、本当に必要な支援を感じるワークショップ」  
～プログラムを使った体験的学び～
- 演習「マンダラチャートで未来を描く」  
～私たちの方向性をみんなで作る4～
- まとめ  
講師：清國 祐二 氏（大分大学大学院 教育学研究科）



学びの紹介

- 反転文字：音声を使うことなく、「文字」を指で示しながら、相手にその内容を伝えるゲームです。ひらがな「3文字の言葉」を相手に伝えてもらいます。マスクも取らず、飛沫も飛ばないゲーム。
- <人生の残り時間を家族とどう過ごしますか>  
→人それぞれの価値観があることに改めて気づきました。多様な考えを受け止めることを学びました。
- 家庭や子供の育ちをめぐる状況
  - ・コロナ禍における「家族」や「社会とのつながり」重要性の意識⇒「家族」の重要性：49.9%  
「社会とのつながり」の重要性：39.3%
  - ・現在の家族と過ごす時間を今後も保ちたいか  
保ちたい⇒肯定回答81.9%
  - ・テレワークの利用など、夫の働き方が変化した家庭では、家事・育児での夫の役割が増加する傾向データの資料を見て、気になった事、支援をする際の留意点等を考えました。
- 演習：「マンダラチャートで未来を描く」～私たちの方向性をみんなで作る4～

計画通りに進行できる	ねらいがぶれない	目的・目標をはっきりとさせ、そこに向かわせる	機転を利かす	人生経験	頭は冷静に表情は笑顔	言葉にメリハリ	立ち位置動く・立ち止まる	語彙力
話過ぎない	タイムマネジメント力	アプリやAIで時短	子育ての体験(失敗談)を語る	メンタル	健康な体	自分の言葉を持つ	自己表現力	表情豊か
予告する(あと1分です等)	打合せをしっかりとする。	いい人すぎず周りを気にせず(きく)	事前準備をする(練習)	てっぱんを持っている	はっきりとした目標、目的を持つ	あやまることも	ネタをもつ	自分の話をする
あいつち	質問等まとめてフィードバック	子どもの目線	タイムマネジメント力	メンタル	自己表現力	わかりやすい説明と進行	グループワークの時に少し事例をあげる	アドリブ
参加者の話を聞く	共感力	現代のやり方を理解	共感力	愛されるファンリデータ	プレゼンテーション力	慣れる	プレゼンテーション力	研修で学ぶ
自分の意見を押し付けない	雑談力	繰り返す	3つのルール	安心感	質問力	はっきりとした言葉	自信を持つ	笑顔で笑顔を引き出す声の大きさ、目力
外で話をしない	気長にやりとりする	否定しない	くみ取る	そっと話しかける	自分も楽しく過ごす	意見を引き出す	相手に興味を持つ	発想を変える
明確な指示	3つのルール	自由に話してもらおう	受けなくてもいい笑いのとれる話をする	安心感	笑顔	多面的に見る	質問力	傾聴する
アイスブレイクで仲間づくり	話を聞きだす	参加者の協力	笑いをつくる	元気な空気感	参加者が話やすい場づくり	話を広げる	自分の失敗弾などの事例をちよっと話す	場の雰囲気

マンダラチャートで未来を描く グループ1 作成

<参加者より>

- コロナ禍ならではのアイスブレイクがとても参考になった。
- 資料をもとに考え、意見を共有することができた。
- マンダラチャートで未来を描く”でファシリテータのめざす姿、そのための要素や役割をスタッフとともに深く考えることができる良い機会となった。
- 3年ぶりに対面での指導を受けることができとても良かった。マンダラチャートでは、他の人の考えや思いをたくさん聞いて良かったし、ワークを考える場面では、一人で考えるよりみんなと話し合いながら考えることの大切さを再確認できた。
- 顔を合わせて意見を出し合うことは、大人だけでなく今の子ども達にも大切なことだと思った。学びを繰り返すことで、深く考える機会になる。

大雪・凍結の中、集まっていたき有難うございました。残念ながら、参加できなかった方々、申し訳ありませんでした。



募集

## 企業は家庭の応援団 とっとり家庭教育推進協力企業

令和5年3月15日現在

945社と  
協定を結んでいます。

学校への参加を推奨するなどの子育てしやすい職場環境づくりや子どもたちの様々な活動の支援などに取り組むことで、家庭教育を応援していただく企業と鳥取県教育委員会が協定を結んでいます。

協定締結後は、次の①～④に掲げる項目のうち2つ以上に取り組んでいただきます。

### ① 学校へ行く

参観日や学校行事等に参加しやすい  
職場環境づくりの取組

- 園や学校行事への参加促進
- 子育てや教育に関する機会への参加に対する休暇の優先取得
- 半日・時間単位の休暇制度等



### ② 仕事を語ろう、仕事を見せよう

子どもたちによる親の職場訪問や学校への  
出前授業、学校行事の支援となる取組

- 「子ども参観日」など、保護者の職場を子どもが参観・体験
- 生徒の職場体験・インターンシップの受入
- 学校・地域へ出かける「出前授業」や講話等



### ③ 子どもの体験活動を広げよう

親子や家族で参加する自然体験活動や  
地域貢献活動、職場行事の取組

- 子どもの自然体験活動やものづくり体験の実施
- 子どもが参加できる行事の実施等



### ④ 我が社の子育て支援を進めよう

①～③に準じた「子育て支援」に向けた取組

- 「育児の日」「家庭の日」や「ノーマレーデー」の取組
- 企業内託児や学童保育の体制整備
- 家庭教育研修会の実施等



### 取組状況報告書より

- ・学校行事などの参加は、気兼ねなく休みがとれるように、社内みんなでお子さんの成長を聞き、見守っている。
- ・社内イベントとして「WEL ママ座談会」を実施。育休中の社員に向けた会社の最新トピックス紹介、育休社員同士の交流、復帰予定部署の同僚・上司との交流などを行なった。
- ・高校のインターンシップを受け入れた。学校では学べないことを学べたと感想をもらった。

予告

### ① 令和5年度子育て・家庭教育支援員養成講座 兼家庭教育関係者研修会 (6月、7月、9月、11月に開催予定。)

市町村における家庭教育支援チームの形成や家庭教育支援ができる人材育成を図るとともに、訪問型家庭教育支援体制を含む切れ目ない・きめ細やかな子育て・家庭教育支援体制の構築を図るため、各市町村で核となっていたり家庭教育支援員を養成する講座を開催します。

併せて、市町村家庭教育担当職員、子育て・家庭教育支援関係者を対象に市町村における家庭教育支援の充実に向けて県子育て・人材局と連携・協働して開催します。

### ② 県内家庭教育支援チームの情報交換会 (7月開催予定)

県内の家庭教育支援チームを対象として、情報交換会を実施し、各チームの取り組みの充実を図ります。

### ③ 「とっとり子育て親育ちプログラム」 ファシリテータフォローアップ研修会 (9月ごろに開催予定。)

令和元年度改訂した「とっとり子育て親育ちプログラム」を活用し、PTA研修会や企業内研修会、地域懇談会等での進行役となるファシリテータのフォローアップ研修を実施します。

子育て・家庭教育支援を  
できるところから、継続的に  
取り組んでいきましょう！



### 【事務局より】

早いもので今年度も残すところあと僅かとなりました。このコロナ禍の3年間に失ったものもたくさんありますが、「当たり前」と思っていたことが、実は「当たり前」ではないことや大切な人・もの・ことに気づけた3年間だったようにも思います。「ふだんのつながりの中での子育て」は、保護者の方々の心強い応援の1つだと考えます。年々、各市町村での子育て・家庭教育支援が地域の実情に合わせて充実しています。これも皆様のご理解とご協力の賜物と感謝申し上げます。皆さんの取組が保護者の安心、笑顔につながり、子どもたちの未来を創る力になります。引き続きよろしく申し上げます。

